

公民館だより

59.3
田良地区
公民館

明るい柱みよい由良に
あいさつ運動の推進を

館長 藤本秀雄

青少年の健全育成と明るい由良の町づくりの一環として、あいさつ運動を提唱し、各家庭にステッカーをお配りし、協力をお願いして既に三年たちました。その結果については、学校にアンケートを依頼して調査しましたが、ある程度の成果はあったものと信じます。

あいさつ運動だけで由良がよくなるとは思いませんが、地域の連帯感を養い、区民がしあわせになる。人づくりの基調は、やはりあいさつし合うことだと考えます。つまり挨拶の後は、「ひらく」ことであり、桜は、「せまる」。「あなたの中に入る」という解釈にたてば、区民相互が心を開いて近づくことによつて、人と人との温かい人間関係が自然に生まれると思えます。

日本人は、利害関係のみで人間関係をつく

るとして世界より批難されている現状です。物より心の豊かさを大切にしたいためです。今年も、別のステッカーをお配りしますのて、どうか引き続きあいさつ運動にご協力願います。各家族から初め、隣の人とともに更に地区全体へと広げていただき、明るい由良にしたいと思えます。

報告(一)

主事 平間克己

一文化祭「音楽の部」

ピアノ・エレクトーン発表会

日時 十一月三日 十二時三十分

会場 由良小学校体育館

講師 坂下文子、中西玲子先生

今年も文化祭行事として、公民館協賛の下発表会が行われた。毎年ながら立派な演奏をされたが、此処に至るまでこの一年間の練習は、先生も弟子も並大抵でない。

五歳から中学二年生までの弟子は、毎週一回約二十分間、然も二十人のお弟子さんの練

習指導、立派な演奏も宜なるかなと誉め称えたい。

二文化祭「作品の部及びバザー」

日時 十一月二十日 午前九時より

午後三時まで

会場 由良幼稚園

今年も優秀作品が多数出品された。従来作品展は、「生花」「書道」の二つの柱のほか、個人的な趣味の出品であったが、二年前より由良写真クラブの積極的な参加、更に水墨画の中年婦人層の作品と盛りより、また新しくスキル式のれん「虎」「丹頂鶴」の異色作品、それに毎年変らず出品して頂く絵画水彩画、この盛り上りの原動力は、何と云っても小室桂泉先生の茶席を設けていたのだ茶の持待で、格長高い文化祭になった所以であろう。また、小学校の高学年の女生徒が桂泉先生より、お手前の暖いおもてなしを受け嬉しそう。いずれこの娘達にもこのことが懐しい思い出になろう。

また、今年も婦人会が文化祭参加バザーを会場の玄関で開店され、新鮮な地元産の野菜

の廉価販売に人気が集り、喜んで買いに来る人が多く、ついでに作品展の観賞する等持ちつ持たれつの効果があった。

三新春囲碁大会

日時 一月二日 午前九時より

会場 老人憩の家

恒例の行事で、各種囲碁大会に出場し、嚇たる戦果を挙げ、見事三連覇を達成し、快調に新記録に挑んでいるのも、この新春囲碁大会からの出発に始まったので、他所のチームが打倒由良に燃えているが、新春囲碁大会が続く限り由良チーム打倒は夢に終わろう。

四成人式

日時 一月十五日 午前十時

会場 宮津会館

成人対象者 三百八十四名(男、一五一名)

女、二三三名)

成人式に出席された由良成人数

二十名(男、八名、女、一二名)

成人式に出席された由良成人の紹介(敬称略)

脇 磯本美和、今出礼子、日比尚美

宮本 今西 浩、玉垣幸子
 浜野路 石井智恵、大森清正、北野剛教
 小西晶子、田中おどり、田中栄司
 中西伊津子、中西一栄、中西知子
 森岡俊子

港 中西和夫

上石浦 上島高志、上島 寛

今年の成人式は、連休のため突如として参加希望者がふえ、受け付けの各地区公民館主事は戸惑い、記念品の確保に難儀した。

五、第三回四部対抗囲碁大会

日時 二月五日 午前九時

会場 由良の里センター

輝かしく伝統を誇る由良囲碁界に、新人を求めつつ、碁界の発展を願うため、由良公民館は四部対抗囲碁大会を始め、早二年を経過した。各部五人の棋士による団体戦である。

成績 一位 二部 (三年連続)
 二位 三部
 三位 一部 四部 (同点)

六、第四回四部対抗男女バレーボール大会

日時 二月五日 午前九時

会場 由良小学校体育館

近年稀な豪雪に見舞われ、まるで冷蔵庫の中で生きていて、寒々とし、弥か上にも沈み勝ちな時、四部対抗男女バレーボール大会は勝敗にこだわらず、思い切ったのスパスイクは将にうつ念を吹き飛ばす明るいスポーツで、そこは熱気一杯です。それに子供が、出場している父母に応援する様は、微笑ましい風景です。

成績 優勝 男子 二部
 女子 三部 (二年連続)

なお、参考までに

第一回優勝 男子 二部、女子 四部
 第二回優勝 男子 三部、女子 四部
 第三回優勝 男子 三部、女子 三部

報告 (二)

寄附

(一金参万円 (七父為供養))
 大森 秀朗氏

追悼

由良公民館

元由良地区公民館副館長大森金蔵氏は、自宅療養中の処、去る一月二日、手厚い御看護の甲斐なく、老衰にて静かに永眠されました。享年八十五歳。此処に謹んで哀悼の意を表します。

特に、昭和四十一年より由良地区公民館副館長に就任されるや、四方公民館長の良きチヤ房役として、種々功績を残され、活躍されました。

高潔で円満な御人格であった故大森金蔵氏は常に明るい家庭づくりをモットーとして、自ら実践されたと聞きおよび感動致しました。今更には滋養に満ちた温顔が思い惚ばれ、名残りつきぬものがございます。

いつまでも安らかにとご冥福を祈りし、お別れと致します。



宮津線の維持存続を守ろう

中西 孫兵衛

国鉄経営再建促進特別措置法により、地方交通線対策が実施され、赤字ローカル線の廃止計画が進み、私達宮津線の存続が危ぶまれる危機が迫ってまいりました。しかしながら私達の先輩が、また、沿線地域住民の皆さんがなみなみならぬ苦勞と団結により、今日の宮津線が大正十三年四月十二日に開通致しました。大変懐しいあの力強い汽笛が鳴り響き、由良ヶ岳にこだまして、ふる里に、日本海に広がり、このような立派な郷土由良を築き上げてくれました。

長年にわたり住民生活に密着し、今後とも福祉の向上、地域経済の振興等に関し大きな役割を担うべきものであります。しかし、近代化の進展と高度の生活環境には勝つことが出来ず利用が低下して、私達が予想もしなかつた宮津線の廃止問題となりました。

宮津市におきましては、宮津線利用拡大推進協議会を、また、議会では国鉄等対策特別委員会を発足し、沿線市町でも同じような委

員会等をつくりこの問題と取り組んでおります。国の方針では、乗車密度二〇〇〇人未満昭和六十年以降は、四〇〇〇人未満の場合は廃止路線になるといふことです。

それでは、今日の実績は、昭和五十四年頃は三〇〇〇人以上ありましたが、昭和五十七年は二七一四人。推定ですが、昭和六十年は二四二四人に減少が予想されます。こうなりますと、全く維持存続の夢もありません。

私達は、これからどのように対応すべきかということですが、

一、幅広い運動により、乗車密度四〇〇〇人を目指す。

一、政治的に、中央に特別措置を求めているだけでなく働きかける。

この二点になると思います。これも宮津市のみがいかに頑張っても弱いもので、西舞鶴から豊岡までの沿線住民の一致した理解で、強力に利用を深めるとともに、宮津線外の客を一人でも多く吸収することにあると思えます。

現在、宮津市は勿論、関係市町におきまは補助政策を実施中で、今後は通勤者等も対

由良地区の皆様へ

市議会議員 山下 伊左衛門

由良地区の皆様には、市政に何かと御協力頂き先ず始めに心から御礼申し上げます。

日本海時代の致来、或いは地方の時代といわれる一時期がありました。他都市と同様宮津市も過疎の波が打ち寄せ、景気の低迷による各産業の不振、国の行政改革、財政再建の基で極めて厳しい財政状況にあります。今日の宮津市は、かつてない大きな事業なり、市の今後に影響を及ぼす問題を数多くかかえ、これ等に結論を出し、或いは推進して行く重要な時を迎えております。

紙面の関係上簡単に申し上げますと、先ず第一は、御存知の宮津エネルギー研究所であります。去る昭和五十六年十二月に市は環境現況調査を受け入れ、五十七年四月より五十八年六月までの間に、延調査員一万二千人、百四十八項目に亘る空、陸、海、社会環境の各調査を終え、昨年九月府市に結果が報告され、更に近くこれに基づき環境影響評価報告書並びに建設計画が閣議より提出される段階

象に考えるべきで、ただ今検討中であり、また、通学の場合は殆ど利用されますが、通勤者になりますとマイカーに変わります。一般客一人一人の利用も重要ですが、通勤の方の理解と協力をいただくならば相当の数になり、毎日のことですので実績は益々向上し、前途の見通しが大変明るくなります。このことについて、今日の時代には誠にむずかしい点も多いことと思いますが、懐しい丹後由良駅がなくなり、線路がはがされたら私達の淋さ、不便さはどうなるでしょう。

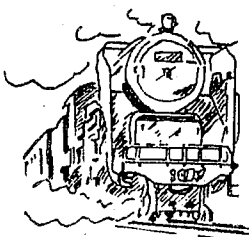
全国では、現実に廃止になった線、指定を受けている線があります。『まさか宮津線がなくなるなんて』と思われる人が殆どであろうと思いますが、宮津線は今こそ危機を迎えているのです。

皆さん、心を新にしてこの問題と取り組み悔いのない未来を築き上げましょう。

乗車の輪

広げて守ろう

宮津線



にあり、環境に悪影響があるのでは、また、市の活性化の為に是非建設をというこれ等の意見をふまえて、十分検討し結論を出さなくてはならぬ時期が来ております。

次に国鉄宮津線の維持存続についてであります。昭和五十五年十二月、国鉄再建法が施行され、輸送密度二千人未満の特定地方交通線を、六十年までに廃止、転換が決り、更に四千人未満の路線は、六十年以降に廃止、転換が検討されているのであります。宮津線は五十七年度二七一四人で、今の状況ですと今後とも乗車人員が減少し、存続が厳しい極面を迎える事になります。また、更に国鉄は、本年四月二十日より、これまでの全国一律の運賃を改め、地域別旅客運賃を導入した値上げを実施するとしており、ローカル線利用の住民に負担を増し、利用客の減少につながりかけない改正になっております。

宮津市も利用者の補助制度を始め、議会と一体となり啓蒙と御願いを致しております。また、国、国鉄に存続運動を強力に展開しているところであり、また、丹後由良駅構内に、自転車駐車を三百六十万円の事業費で

百合収容の施設を三月末日に完成する予定に致しており、今後一層宮津線利用に御協力を頂きますよう御願ひ申し上げます。

次に宮津湾埋立て計画であります。新浜沖五万二千平方米を二十数億円の事業費をかけ土地造成を行い、緑と公園、駐車場、市民体育館等を計画し、町づくりの目玉として広く各関係者の意見と協力を求め、早急に事業着手したいとしております。

また、宮福鉄道につきましては、工事が再開され、六十三年国体開通をめざして、宮津駅前一体の整備、宮福線の乗り入れる駅裏整備を始めとして、駅周辺を一新しようとするものであります。

その他重要事業として、国体受け入れの課題、宮津バイパスを始めとする幹線道路の整備、宮津湾流域下水水道等、大きな事業が山積み致してあります。

こうした中で、私達のふるさと由良をどうとらえ、豊かな住みよい地区にするかであります。幸い海岸保全事業を始め、新農構事業、圃場整備事業等、地区の基幹産業である観光と農業振興事業が、皆様の御協力のもと進展

しているところでありますが、それとともに地域性から見て、働ける職場の誘致確保も考えなくてはならぬ大きな課題であります。また、地区に終末処理施設をもつ下水道事業についても真剣に取り組む必要がおります。更に、地区のスポーツ熱は誠に高いものがあります。照明施設を伴う多目的入スポーツ広場の建設は、取り組んで行くべき事業と存じます。以上簡単に御報告と所見の一端を申し上げます。させて頂きましたが、これ等の事業は、地区の合意なくして出来るものではありません。問題点をそれぞれの立場から話題にして頂き、ますとともに、皆様の今後一層の御指導を賜りたく存じております。最後に由良地区の利益の発展を心から御祈り申し上げます。

四部対抗囲碁大会

熊田良雄

昭和五十九年二月五日午前九時より由良の里センターに於て、恒例の四部対抗囲碁大会が開催された。各支部の代表選手は、口自慢

腕自慢の猛者達ばかりである

各人の持ち時間は、一局約一時間を限度として、先ず一部と二部、三部と四部の対抗試合から熱戦の幕が切つて落された。戦前の予想では、二部優勝の下馬評が高かったが、午前中は三部が優勢で、もしかすると二部の優勝は、難しいのではないかという声も聞かれた。これに発奮したのか午後に入ってから、概然二部の選手は好調に白星を重ね、結局二十五勝五敗で優勝の栄に輝いた。二位は三部三位は一部と四部が同率となった。私自身は非常に好調で、五勝零敗と全く自分でも予想の出来ない好成績でびっくりした次第です。

毎年思うことですが、由良の囲碁愛好者はレベルが高く、対外試合をやつて殆ど賞をはずしたことがなく、これは会員の皆様の日頃の研修の努力が実を結んでいる証拠であります。ただ今後の由良囲碁同好会の課題は、一人でも多く同好の士を集めて、このような大会を年に数回開催することであり、皆様の隣近所の人を誘つて、囲碁の楽しさを教之、また、人間同志の深い交際の一環として、由良囲碁同好会を盛り上げて行くことではありませ

んか。囲碁の勉強は、何時までも老化を忘れさせ、毎日が楽しく暮らしていけると信じている次第です。どうか皆様また明日から元気で暮がうてるようお互いに頑張りましょう。本日は、本当にご苦労さまでした。

四部対抗バレーボール大会を終えて

浜崎利雄

例年になく大雪の中で行われた四部対抗バレーボール大会。

本年は、決定日時が一週間前と時間が短く、人を集めるのに各部とも苦労された様子で、なんとか試合にこぎつけたようでしたが、いざ試合となると各部とも白熱したゲームが続き、あちらこちらから野次や冷かしの声援まで飛び交うありさまでした。また、選手達は陣をつくって作戦を……。選手交代、タイムなど、試合の流れを我チームへとあの手のこの手、日本リーグ戦さながらの様相になり、大変な熱中ぶりでした。

しかし、各部落からも各審判に多数の抗議があり、何度もある原因となったので、次回からは改め、無しく皆に親しめる由良独自の公民館バレーのルールをつくり、各審判に徹底しておく必要があると思われました。

なにはともあれ、男性は三部の連続優勝をこばみ二部の優勝、女性は三部の連続優勝となり、無争閉会を迎え、皆口々に来年こそはと誓いあっていた。



四部対抗

バレーホール大会に参加して

三部 玉垣 泰子

第四回四部対抗バレーホール大会が小学校体育館で開かれました。とても寒い二月五日でしたが、選手の人達、応援の方達の熱気で会場は盛り上がり、とても

よい雰囲気です。試合が進められました。女子の方は、育友会、サークルとバレーが盛んでとてもうまくなっていました。男子も目を見張るようなプレーが有り、思わず「うまい」と手をたたいた。常日頃運動不足のお父さん達とは思えぬほどの好プレーが続出しました。

お陰様で私達三部は、選手の方、地区の皆様、協力や応援で二連勝することが出来ました。心より感謝致しております。本日は有難うございました。

試合中言葉を交したわけでもなく、今まで道で出会ってもあいさつすらしなかった人が、数日後道で出会い、どちらともなく「ニコッ」として頭をさげる。「来年もまたバレー頑張ろうな」と言葉を交す。

豊かな人間関係、一人でも多くの人達との交流。こういう大会に参加するたびに、いつも思うんです。「ああ健康でよかった、ありがたい、バレー続けていてよかったです」

時として、四十を越えた身体に抵抗を感じながらも……。でも私はスポーツが大好きです。サークルの人達といつも言っているんで

す「身体の続く限りいつまでも続けような」と……。

皆様、木曜日、日曜日の夜八時より十時までバレーサークルやっています。男性の方、女性の方、バレー始めてみようかなと思われる方、どしどし来てください。

ストレス解消と健康づくりのためにやってみませんか？

二十歳を迎えて

田中 栄司

私は、二十歳という一つの節目を迎えて、大人として認められるようになりました。また、大人としての責任を問われるようにもなりました。

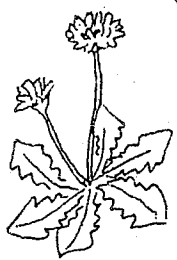
今までは、未成年ということと許されたことに対して、これからは、責任をもたなければなりません。成人した今、未成年の時のように人に甘えてはいられません。そして、これから何事に対しても、自分自身の力で立ち向って行かなければなりません。自分の

力がどこまで通用するか判りませんが、とにかく自分の力で立ち向うことが大切で、また、そうしてこそ自分自身に対して、誇りと自信が持てるようになり、そして初めて一人前の大人として認められるようになるのだと思います。

社会的にも人間的にも一人前の大人になれるのはいつか判りませんが、そんな大人になるためにも、私は、何事に対しても全力で取り組んで行きたいと思っています。

成人式を迎えて

中西 一栄



成人式を迎え、もう一度社会に出るような緊張感で更に気持ちを引き締めなければならぬと思います。二十歳という、大人の仲間入りをした感じですが、実際私自身が変わってみると、まだまだ子供で、学生時代と変わらず中身は成長していません。気がいります。これからはいけないと思います。あせっては、自分を見失ってしまわないので、何事にも

もマイペースで努めていかなくてはと思いま
す。

社会に出て、はや二年。

始め何もわからず、先輩に教えていたらくこ
とばかりでした。何をやってもスムーズには
いかず、先輩の格もかかりました。一日も早
く慣れ、みなさんに迷惑をかけないようや
っていきたいと思ひ続けてきました。よう
やく仕事にも慣れ、何とか追付けるまにな
ったと思つています。でも精神面では、まだ
まだ根性がたりないと思ひます。仕事には、
甘えは絶対許されず、「責任」を持ってしな
ければならないのです。仕事だけでなく、私
生活でも、責任を持って行動しなければなり
ません。

これからの長い人生には、辛いこと、悲し
いことなどいろいろなことがあります。そうい
うことを乗り越えてこそ人生であり、通らな
ければならない道であると思ひます。

できるだけ悔いのない人生を生きるため、
目標をもち、強く生きぬいていきたいと思ひ
ます。



思 い 出

奥 野 貞 雄

宮津線の鉄道工事が、本格的に始つたのは
大正九年からであった。

民家の大半は、鉄道工事人に間貸しし、朝晩
は人通りで賑ふようになった。当時は衛生設
備は皆無で、風呂桶等も満足する程もない状
態であった。また、沿線の谷間には、急造の
粗末な飯場が数カ所に建てられた。各地より
出稼ぎの青年達は、これらの飯場に収容され
た。また、村内には、鉄道労働者の家族連れ
が多く、第三国人も多数入り、由良の人口も
それがため増え、村内は活気に溢れ、にぎあ
いを見せた。

小学校火災の時は、手のすいた工事関係の
屈強な若者が応援にかけつけ、お蔭でたちま
ち水圧が上がり、屋根瓦も吹き飛ばぐらいた
った。そのため危かつた東校舎は火災を免が
れた。こうしたことから、鉄道工事労働者の
人とも仲良くなり、頼まれれば工事の応援に由
良の青年も出動し、トロッコ（土運車）押し
に出た。

当時は、娯楽機関など何もないので、活動
写真大会（映画大会）を催した。

また、その純益で支部は青年団旗を作り、残
りの金額は運営資金に当てた。時にはレール
敷の犬釘打ちの仕事に出たが、なかなかむず
かしい仕事だった。

かくて大正十三年待望の鉄道開通式が、由
良小学校の落成式と同時に挙行された。

大森村長は、前日青年団幹部を役場へ召集
し、各字より山車を準備せよ。

一、村の幹部は、学校の祝賀式に参列するた
め多忙なので、駅の祝賀は、青年でやって
戴きたい。

二、祝賀は、酒に喧嘩は付きものだ。御大典
の時のような惨争があつてはならないから、
駅へ山車の練込む順番を決めたいと相談が
あつた。

三、当時の青年団長中西芳三郎氏より、「われ
われ青年は、喧嘩は絶対にはいたしません」と
指切りをしたが不安が残る。

おとは村長に一任した。その結果、一番は松
下（？）で、脇は二番だった。
大正十年に教つた天神囃で、大いに祝賀し

たが、破れんばかりの好評であつた。

その直後、一番の山車が廻り舞台を利用して
後退するのではないかと思つて見ていたら、
一回転したので驚いて見直おせば、駅前建
てた祝賀アーチが風もないのに、一大音響と
ともに倒壊した。

これで駅への道は、完全に塞り通行止めとな
り、二番山車（脇）の祝賀は脇のみとなった。
残りの山車は、予定地港稻荷神社へと祝賀し
た。これで無事終了した。

後日、村長より「良識ある青年たちなり」
と賞品を出して礼を言われた。

最後に一言、現今、八輛編成の客車を冬で
も走らせながら「赤字だ」、「廃止だ」と騒い
でいる。また、一方では、宮福線工事が始ま
った。何が何んだかわからない。もっと老人
にも納得出来るような行政が出来ないのか。
国民の足は、政治の責任で赤字であつても
確保するのが当然ではないでしょうか。

春の全国火災予防運動 実施中

点検は 防火のはじまり 締くり

宮津市消防団 由良分団